

俺はサラブレッドが好きだ。あの利発さ、あの闘争心、あの

感受性、あの美しい姿態と目の色、そして美しさの底にたゆと

り不思議な哀しさと、それらはみな人智を媒介にして、しかも人智

など遠く及ばない血と血の必然の融合から生まれたものなのだ。

「優駿」第二章「ゴドルフィン」の血より



「優駿」下巻



「優駿」上巻

ストーリー

「風のように速く、嵐みたいに烈しい、そんな名馬が生まれますように・・・」悠然と流れるシベチヤリ川のほとりで一心に祈る若者。その祈りを受けて、まだ寒い北海道静内の小さな生産牧場トカイファームに、一頭のサラブレッドが生まれた。いつしか登場人物の一人ひとりが、オラシオン（祈り）と名づけられたその仔馬に自分の夢や祈りを重ねていく。誕生、母馬や生まれ育った牧場との別れ、競走馬としての訓練、やがて迎えるダービー決戦。オラシオンの競走馬としての成長を通して、いのちの尊さと哀しさ、宿命の持つ不思議な美しさが描かれている。誰よりも速く走るために生まれてきたサラブレッドの、哀しいまでの気高さを感ぜさせる作品。

この小説は、単なる「競馬小説」ではない。競馬はあくまでも題材に過ぎず、オラシオンを取り巻く人間模様が主眼となっている。

個性引き立つ登場人物たち

主要登場人物

馬主

和具久美子

ほんの気まぐれからオラシオンを父にねだり、同時に自分に誠という弟がいることを聞かされる。初めて誠と対面した久美子は自分の弟を愛しく感じ、生きる糧になればと、何かに導かれるようにオラシオンを誠譲る。

和具平八郎

和具工業株式会社の社長。会社の吸収合併や息子・誠の病気の知らせを受けるなど、苦しい現実の中を生きている。都会の喧騒に疲れた平八郎は、仔馬が飛び跳ねる姿や牧場の風を求めてトカイファームへ足を運び、オラシオンに自分の夢を託すことを決意する。

奈良五郎

仔馬の頃に事故に合い顔に大怪我を負ったミラクルバードで連勝し、騎手としての腕をあげる。ある事件から、すべてのレースに死ぬつもりで騎乗することを誓う。現在はオラシオンの騎手をつとめる。レース前には細かく作戦をたてるなど、研究熱心である。

騎手

その他登場人物

多田時雄

和具工業の社長秘書室勤務。オラシオンの名づけ親。和具社長とは上司部下を超えた信頼関係があったが、会社が吸収合併される危機の際、社長を裏切って相手会社と通じてしまう。

吉永達也

日本で一二を争う牧場、吉永ファームの牧場主。「馬の良し悪しは環境にある」と牧場の草の質や馬の放牧時間に気を配り、自分の生産した馬の調教には必ず立ち会うなど、徹底した仕事ぶりである。

田野誠

和具平八郎と愛人田野京子との間に出来た子どもで、久美子の腹違いの弟にあたる。慢性腎不全を患い、回復のために父・平八郎の腎臓移植が必要だと診断される。

生産者

渡海博正

トカイファームの後継者。トカイファームを有数の牧場へと成長させることを夢見ている。いつも馬に話しかけ純粋に馬を愛している彼は、他の登場人物たちの心を打つ。オラシオン誕生の日には久美子と出会い、ほのかな想いを寄せている。

渡海千造

北海道静内の小さな牧場、トカイファームの牧場主。持ち肌馬のハナカゲと種付け料が高額なウラジミールを掛け合わせる、という一世代の夢をかけてオラシオンを産み出した。借金に苦しみながらも名馬づくりに情熱をかける。

砂田重兵衛

人間の商売の都合で馬を走らせる調教師が多い中で、馬が一番いい時を見極め、それを待つことができる調教師だと定評がある。久美子に惹かれたが、オラシオンを丁寧に仕上げる。

調教師

